

令和5年2月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	15	議席 番号	3	氏名	近藤千鶴 議員	1 / 2
発言項目				要 旨		答弁者
1	少子化や学校老朽化に伴う学校再編計画について			<p>教育のICT化、少子化、学校施設の老朽化、感染症対策など学校を取り巻く課題は急速に変化している。当市においては少子化が最重要課題である。また公共施設の老朽化も喫緊の課題であるが、公共施設の44%が学校施設である。これらの課題は今後も続くことが予想されることから、将来を担う子どもたちにより望ましい教育環境を整えるために、学校の再編計画を策定すべきと考え、以下伺う。</p> <p>(1) 出生数について。</p> <p>① 令和4年の出生数。</p> <p>② 10年前の出生数。</p> <p>③ 予想される10年後の出生数。</p> <p>(2) 小学校新入学児童の人数について。</p> <p>① 令和5年度の人数。</p> <p>② 10年前の人数。</p> <p>③ 予想される10年後の人数。</p> <p>(3) 県内の市町での学校の再編計画についての動きはどうか。</p> <p>(4) 市内学校校舎の経年について。</p> <p>① 築年数50年以上の小中学校は何校あるのか。</p> <p>② 築年数40年以上の小中学校は何校あるのか。</p> <p>(5) 県や国の学校再編に関する方針はどうか。</p>		市 長 副 市 長 教 育 長 関 係 部 長
2	有機給食及び給食無償化について			<p>(1) 化学肥料や農薬を原則使わない有機食材を給食に取り入れる動きが広がりつつある。千葉県いすみ市においては有機栽培を行う農家を支援し、2017年10月に学校給食を全て有機米に変え、また昨年10月には給食費の全額補助を開始した。地産地消によるまちの活性化、環境負荷の軽減及び地域ブランド化につながり農業の新たな活路としても注目されている。大阪府泉大津市及び兵庫県豊岡市においても給食について有機米の使用を始めている。</p> <p>世界に目を向けると、韓国及びフィンランドにおいて、学校給食への有機農産物の使用を積極的に導入しており、有機農業の拡大は世界の潮流になっているように思える。</p> <p>なお、いすみ市における学校給食の全量有機米をどのように実現したかを調べると、「自然と共生する里づくり協議会」を設立し、いろいろな団体が加盟して、まち一体となった活動が重要であったことがわかる。</p> <p>有機給食の早期実現は言うまでもなく、自然環境の保全、ゼロカーボンシティ及びみどりの食料システム戦略の目標の実現に向けての取組を進める必要があると思われる。以上のことから、「地域ぐるみの協議会」を早急に設置すべきと考えるが、市の考えを伺う。</p> <p>(2) 岸田首相は異次元の少子化対策を掲げている。子育て世帯、農業関係者及び各自治体は、給食費の無償化に期待を寄せている。物価高騰の中で保護者の経済的負担を軽減し、地域の有機食材で子どもの健全な発育を支えていくことが務めだと考えるが、学校給食費の無償化についての当市の考え方を伺う。</p>		市 長 副 市 長 教 育 長 関 係 部 長

発言 順序	15	議席 番号	3	氏名	近藤千鶴 議員	2/2
発言項目		要 旨				答弁者
3	放置竹林とバイオ炭 について	<p>富士宮市において放置竹林は増加するばかりで、竹林拡大の対策が進んでいないというのが現状であるが、以下伺う。</p> <p>(1) 放置竹林の整備について。</p> <p>① 市内においては整備している団体や組織はどのくらいあるのか。また、その団体への補助金はあるのか。</p> <p>② 団体や組織をホームページなどにより広報することはできるのか。</p> <p>③ 小型の粉砕機の貸出しを考えているのか。</p> <p>④ 放置竹林から生産したメンマなどを給食で使用することはできるのか。</p> <p>(2) バイオ炭について。バイオ炭は2019年の第49回気候変動に関する政府間パネル総会において承認された改良ガイドラインに効果算定方法が記載され、2020年にはJ-クレジット制度の対象にもなった。つまり世界に認められた日本が誇る温暖化対策であると言える。今後の農業利用を含め、より強く「バイオ炭」の普及に力を注ぐことができるのか、市の考えを伺う。</p>				市長 副市長 教育長 関係部長